

先日、長野市内にある公園が閉鎖されるということが、テレビや新聞等で報道された。閉鎖に至るまでの詳細は分からないが、市は最終決定をしたようで、個人的には存続できなかったのかと思う。

私が大きくなる頃は、今のようになんかとした公園や広場はなく、遊び場は未舗装の道路や田んぼだった。今のようになんかとした公園や広場はなく、遊び場は未舗装の道路や田んぼ

にもなく、時々大人が自転車で通り過ぎる程度で、チャンバラごっこ、たこ揚げ、草ベースなどやっていった。別段「うるさい」とか「遊ぶな」というような声はなかった。実に楽しいひとときだった。多分私と同年代の方は、同じような経験をされたのではないかと思う。あれから70年以上がたつが、道路は舗装され、車はスピードを出して走る。私

## 子供を地域で育てる

の地区には安心して子供たちが遊べるスペースはない。ブランコや滑り台すらなくなった。子供たちはどこで外遊びができるのだろうか。

今は少子高齢化の時代である。行政は子供を育てるために一時金を支給するという。

それもいい案だと思うが、もっと大切なことは、子供たちを地域で支えることではない

## 点差

こうさてん

か。そのためには、子供たちが安心して遊べる広々とした空間（広場）が必要ではないか。時々訪れる県外に住む孫たちの地区には広い公園があり、さまざまな遊具で遊ぶ幼児から、芝生の上でボール遊びに興じる小中高生のききとして遊ぶ姿が見られ、うらやましくもあり、考えさせられる。

(安曇野市穂高、萩原義重、78歳)